

令和5年度第2回台東区地域ケア全体会議 議事概要

日 時：令和6年2月29日（木） 台東区包括運営協議会終了後

場 所：台東区役所10階1001会議室

出席者：17名

新田委員 須田委員 加藤委員 木山委員 松田委員 川又委員 井澤委員
石井委員 小嶋委員 渡邊委員 河井委員 鈴木委員 佐々木委員 武田委員
和泉澤委員 佐々木委員 高木委員

1. 地域ケア全体会議

(1) 令和5年度 地域ケア会議 実施状況について

高齢福祉課長

資料1『台東区地域ケア会議の概要』、資料2『台東区地域ケア会議全体図』に沿って令和5年度地域ケア会議の実施状況を報告。資料3『令和5年度地域ケア個別会議実施状況について』、資料4『令和5年度自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議実施状況について』は、会議後のモニタリング状況などが途中のケースもあり、次回の本協議会にて報告。

(2) 令和5年度の各会議で見えた課題と令和6年度の対応について

①ICTを活用した介護予防活動の支援事業について

高齢福祉課長

資料5『ICTを活用した介護予防活動の支援事業について』に沿って説明。

過去の個別事例検討会を振り返り、共通する課題を検討。『自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議』において、歩くことに関する目標が多いと分析。『令和5年度第1回地域ケア包括合同会議』で、高齢者の歩行の機会を増やすための取り組みや企画を検討。その後、高齢福祉課介護予防担当が検討を進めていたアプリを活用した介護予防活動を地域ケア会議の枠組みを使い事業内容の検討を一緒に進める。『令和5年度第2回地域ケア包括合同会議』、『令和5年度1回チームミーティング』では、事業実施に向けて検討。令和6年度からの新規事業として予算化された。

高齢福祉課 介護予防担当課長

習慣化アプリを導入し、オンライン上のコミュニティを立ち上げ、互いに励まし合いながらウォーキングや交流をする。アプリ内に台東区専用ページを作り、5人一組のチームとなり目標歩数を設定。毎日1日1回、写真と歩数を投稿する。アプリを継続することでコインが溜まり、地域貢献に寄付することができる。寄付企業は、台東区独自の企業とする予定。外出や歩数を意識することによって、自然と行動変容に繋がり、お互いに励まし合うことで、承認欲求が得られたり、コミュニケーションが深まる仕組みとなっている。アプリの使用開始前に使い方講座を実施。アプリのダウンロードや投稿のルール、使い方などを2週にわたって、説明をしながら体験してもらう。コールセンターの設置やアプリを利用した区の情報発信、対面での交流会の実施などでサポートしていく予定。

②専門職による福祉用具(シルバーカー)の使い方の助言について

高齢福祉課長

資料6『専門職による福祉用具(シルバーカー)の使い方の助言について』に沿って説明。

『自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議』において、助言者の理学療法士が高齢者の姿勢の悪さを指摘。使用中のシルバーカーのハンドルの高さの調整や押し方のポイントを助言したことで、本人の姿勢が劇的に改善した事例があった。要支援の認定を持つ方は、介護保険サービスに利用限度があるため、リハビリを利用している方が少なく、リハビリ専門職との関わりがない方

が多い。また自己判断での使用によって、姿勢の悪化や腰痛など体への負担となり、要介護状態の移行に繋がるのではないかと推測。介護保険制度以外で、この状況を少しでも改善するために、専門職によるチェックと助言の場を作ることができないかと検討を始めた。

『地域ケア包括合同会議』や『チームミーティング』、『自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議サポーター連絡会』で、実施方法などについて検討。令和6年度は使用中のシルバーカーの調整と使い方の助言の場の提供として実施。地域ケア会議に参加したりハビリ専門職、地域リハビリテーション支援センターなどに協力依頼した専門職を中心に、区が主催する予定。また、当初は歩行器の試走の場の提供も考えていたが、介護保険制度の改正により歩行器の選択にあたって、医師や専門職の関与が義務づけられることが判明したため除外。

委員 <補足説明>

自立に向けて歩行を希望する高齢者に歩く機会をどのように確保するのかという点で、アプリを活用したものをやってみようということに至った。劇的な改善というよりも、元気な方が維持できるようにという活動となっており、面白い取組みだと思う。しかし、懸念としては高齢者からするとスマートフォンの扱い、アプリのダウンロードは難しいので、何らかのサポートが必要であると思う。その点については学生などが手伝ったりできるかなと提案している。

シルバーカーと歩行器の問題で、歩行器は介護保険法の改正で取り扱いが複雑になるということでシルバーカーのみを対象にしてみようということになった。他にも補聴器など、本人の好みで使っていて適切に使われてない、うまく活用されず放置されてしまうことがあると思う。補聴器は使用しないことでうまく使えなくなってしまう、その結果認知症が進行してしまうケースもあると思う。シルバーカーも同様で、きちんと歩けるように適切な指導をしていけば、介護予防ができるのではないかとということで、地域包括支援センターや各事業者の方々と話し合いを行った。

委員 <質問>

歩行のアプリの商品が寄付というのは、やる気が出るかなと思ってしまう。美術館や音楽会のチケットや地域の商品券等の方が、モチベーションが上がるのではないか。また、5人1組のチームでもともと仲の良いメンバーであればいいと思うが、知らない人同士で組んで、いじめにならないかが心配。他区とかで同様に取り組んでいるところはあるのか。

高齢福祉課 介護予防担当課長 <回答>

歩行アプリは、神奈川県と慶應大学で開発し、検証を行ってきた。実際に自分が受けるサービスよりも社会貢献になっているということが高齢者のモチベーションになっている。誹謗中傷への注意や個人情報の取り扱い等ルールを説明している自治体では、利用トラブルなどは今のところないと確認している。都内では2自治体で導入されている。

委員 <意見>

福祉用具の件について、リハビリ専門職に話を聞くと、街中でも不適切な形で使用している高齢者がいるということで、そういった方が一定数はいると思われる。来年度モデル的に実施する予定ということで、事業者連絡会や地域リハビリテーション支援センター、リハビリテーション連絡会にも相談していただきたい。

2. 閉会